



母性看護学実習

実習指導案

生命の誕生と家族の創成 ～学生の気づき(倍返しだ!)～

母性看護学グループ

川口ひとみ 谷崎知子 鶴岡利美 坂口朋枝 濱美希

講師 佐原 玉恵





母性看護学実習 実習計画指導案

生命の誕生と家族の創成 ～学生同士の気づき（倍返しだ！）～

川口ひとみ 谷崎知子 鶴岡利美 坂口朋枝 濱美希

母性看護学講師 佐原玉恵

はじめに

母性看護学とは、妊産褥婦及び新生児への看護活動の他に、思春期、更年期など女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防を目的としている。しかし、実習施設や限られた時間の制約の中では全てを学生に学ばせることは難しい。母性看護学実習では、女性の一生を通して、妊娠・分娩・産褥・育児を学ぶことのできるとても効果的な機会であるといえる。太田¹⁾は、「妊娠・分娩・産褥は生理的変化であり病気ではない。ゆえに、本来備わっている力を引き出し、生理的変化（メカニズム）が順調に経過するためのケアが中心となる。」と述べている。対象は健康レベルが高くセルフケア能力が高いため直接看護行為よりも確認や見守り、育児指導など自立を目指した保健指導、教育が中心となる。つまり、コミュニケーション能力が非常に重要になってくると考えられる。

現代の学生はコミュニケーション能力に欠けていると言われている。また、少子化、核家族の中で育ち、生活経験が少ないことから妊産褥婦・新生児のイメージがつきにくく、実感を持って理解することは困難である。また、男子学生は将来配属されることのない現場ではあるが、実習に参加することで援助を通して産婦に共感することで想像力が沸き、分娩の追体験ができる。そして、カンファレンスで他学生と思いを共有することで、さらに父性観が高められる。そこで、コミュニケーションに自信のない学生と、社会人経験もあり比較的生活体験の多い男子学生を受け持ちのペアとして実習にのぞみ、母性看護学実習は生命の誕生の喜びや希望にみちた楽しいものであると感じてほしく実習指導案作成した。

仮説校の設定

学校名：県立中野渡病院附属看護専門学校 3年課程

教育理念：生命を尊重し人との関わりを大切にできる看護師を育成し、地域の保健・医療・福祉の分野に貢献することを目指す。

教育目的：看護に関する専門の知識や技術を修得し、社会に有為な看護師を育成することを目的とする。

教育目標：

1. 人間を統合された存在として、幅広く理解する能力を養う。
2. あらゆる健康状態に対応できるよう、科学的根拠に基づいた知識・技術・態度を修得し、安全で安楽な看護を実践できる能力を養う。
3. 人々の多様な価値観を認識し共感的態度及び倫理に基づいた行動ができる能力を養う。
4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し、実践に向けた基礎看護能力を養う。
5. 変化する社会のニーズに対応し、地域医療に貢献できる看護実践能力を養う。
6. 看護への探究心と向上心を身に付け主体的に学習し続ける能力を養う。

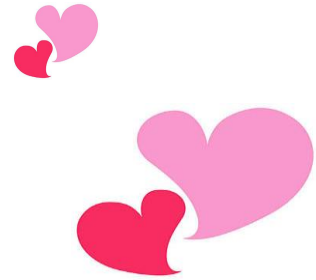


臨地実習の目的

看護の対象を統合的に理解し学んだ理論や方法を用いて対象に応じた看護展開ができる。

臨地実習の目標

1. 対象を統合的に把握し、看護過程の展開ができる。
2. 看護に必要な知識・技術・人間関係調整力を養う。
3. 看護の実践を通して看護観を養う。
4. 看護の向上をめざし、主体的な学習・研究的態度を養う。
5. 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を理解する。



母性看護学実習の目的

母性看護の特性を理解し、妊娠・分娩・産褥期の母性を新生児及びその家族に対する看護実践に必要な具体的能力を身に付ける。

母性看護学実習の目標

1. 母性を取り巻く社会の現状と課題を理解し、母性看護の意義・役割を学ぶ。
2. 女性のライフサイクルにおける性と生殖の意義について理解し、生命を尊重する。
3. 母性各期の特徴と健康の問題について理解し健康の保持増進に必要な看護の方法を理解する。
4. 妊娠・分娩・産褥・新生児期における生理的変化と健康の問題について理解し、母子とその家族に対して適切な看護が実践できる基礎的な能力を養う。
5. 地域における母子の生活を継続して援助するための母子保健医療チームにおける看護師の役割を理解する。






実習指導案

科目：母性看護学実習

実習期間：平成 25 年 6 月 11 日～3 週間 （1 週 5 日間） 8：30～15：30 （2 単位）

対象学生：3 年生グループ 4 名

対象学生の設定

	学生名	年齢	性格・特徴	受け持ち患者
	近藤 由紀子	20 歳	高校卒業後、看護学校に入学 家族構成は父、母との 3 人暮らし 消極的でメンタル弱いが、素直でまじめに実習に取り組む姿勢が見られる コミュニケーションに苦手を感じている	半沢 花 
	泊 しのぶ	35 歳	社会人を経験してから看護学校入学 既婚者 二人の子持ち	
	木下 愛	20 歳	とても明るいが、敬語が使えない等の常識がなくチャラチャラしている	大和田 芙由子
	羽 奈津子	23 歳	社会人を 1 年経験して、看護の道を目指している おっとりしているがみんなのリーダー	島田 三智子

学生レディネス

		1年		2年		3年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野Ⅰ	基礎看護学		←→				
	臨地実習						
	基礎看護学Ⅰ		←→				
	基礎看護学Ⅱ		←→				
専門分野Ⅱ	成人看護学		←→			→	
	老年看護学		←→		→		
	小児看護学			←→		→	
	母性看護学			←→		→	
	精神看護学				←→		
臨地実習	成人看護学Ⅰ			↔			
	成人看護学Ⅱ				↔		
	老年看護学Ⅰ			↔			
	老年看護学Ⅱ				↔		
	小児看護学				↔		
	母性看護学					↔	
	精神看護学					↔	
統合実習	在宅看護論					↔	
	看護の統合と実践					↔	
	臨地実習						↔
	看護の統合と実践						↔

近藤由紀子の既習実習受け持ち患者

実習科目	年齢	性別	疾患名
基礎看護学実習Ⅰ			
基礎看護学実習Ⅱ	60歳	男性	脳梗塞
成人看護学実習Ⅰ	65歳	男性	胆石
成人看護学実習Ⅱ	42歳	男性	胃癌
老年看護学実習Ⅰ	80歳	女性	右大腿骨頸部骨折
老年看護学実習Ⅱ	78歳	男性	狭心症
小児看護学実習	5歳	男性	気管支喘息
精神看護学実習	55歳	男性	統合失調症

実習場所：中野渡病院産婦人科病棟（混合）



実習計画

曜日			月	火	水	木	金
1 週目	月日		6 月 7 日	6 月 8 日	6 月 9 日	6 月 10 日	6 月 11 日
	実習場所 及び 実習内容	AM	病棟オリエンテーション	受け持ち患者ケア	受け持ち患者ケア	受け持ち患者ケア	受け持ち患者ケア 新生児室
PM		受け持ち患者決定	調乳指導	ベビーマッサージ・産後ヨガ	退院指導 母親学級	* 学生カンファレンス	
2 週目	月日		6 月 14 日	6 月 15 日	6 月 16 日	6 月 17 日	6 月 18 日
	実習場所 及び 実習内容	AM	外来オリエンテーション	受け持ち患者ケア	受け持ち患者ケア	新生児室 妊婦計測	新生児室
PM		助産師外来見学	2 週間健診	ベビーマッサージ 産後ヨガ	退院指導 母親学級	* 学生カンファレンス	
3 週目	月日		6 月 21 日	6 月 22 日	6 月 23 日	6 月 24 日	6 月 25 日
	実習場所 及び 実習内容	AM	受け持ち患者ケア	受け持ち患者ケア	受け持ち患者ケア	新生児室 妊婦計測	受け持ち患者ケア
PM		助産師外来見学	2 週間健診	ベビーマッサージ 産後ヨガ	退院指導 母親学級	* 最終カンファレンス	

* 毎週金曜日午後は実習指導者及び教員とカンファレンス

注) 基本は分娩から産褥期までの期間受け持つ。分娩見学が実習できない場合は褥婦のみ受け持つ。分娩見学のみで経過を受け持てない場合もある。

実習場所の設定と諸条件

1. 場所：産婦人科病棟（産婦人科 20 床、他科 14 床）、産婦人科外来
2. 看護体制：産科チームと婦人科・他科チーム、新生児室受け持ち看護制
3. 分娩件数：月平均 40 例（帝王切開を含む）
4. スタッフ：病棟（助産師 14 名、看護師 10 名、看護助手 2 名）
外来（助産師 2 名、病棟より助勤 1 名）
5. 指導体制：看護師長、主任、臨床指導者 2 名、
6. 病棟方針：自然分娩重視、立ち会い分娩、フリースタイル分娩などに対応している。



外来の妊婦健診時には病棟の助産師が保健指導を担当、また助産師外来を妊娠期に 2 回～3 回受けることで妊婦とその家族が安心して妊娠期～産褥期を過ごせるように継続的に支援している。

母乳育児推進のために、分娩後すぐ（帝王切開は可能なら帰室後より）直母の介助を行い、産後 1 日目より母児同室をすすめている。しかし、多様なニーズに対応するため、混合栄養やミルク栄養についても対応し指導している。

初産婦には全例、経産婦は希望者もしくは必要とされる症例に関しては、2 週間健診（退院後 1 週間）を行っている。また、ケアや指導を連携させるために地域の保健センターにも情報提供をおこない支援する体制をとっている。

また産前産後の交流の場となるように、マタニティー教室、マタニティーヨガ、ベビーマッサージ、産後のヨガなど各種教室を取り入れている。

7. 業務内容

曜日	病棟	外来
月	リネン交換 退院指導	助産師外来
火	手術日 調乳指導	2週間健診
水		助産師外来 ベビーマッサージ・産後のヨガ
木	妊婦計測 退院指導	母親学級
金	手術日 調乳指導	2週間健診



8. 褥婦・新生児室のスケジュール

	褥婦	新生児
分娩当日	分娩後6時間より初回歩行	新生児室管理 希望あれば母児同室
産褥1日目	母児同室開始（母児の状態に応じて） 育児・授乳指導	小児科診察 K2シロップ服用
産褥2～5日目	沐浴指導・退院指導（個人、集団） 検査（採血、血圧、体重等） 全身マッサージ（2日目希望者）	小児科診察（4日目） 採血（ビリルビン、ガスリー） K2シロップ服用
産褥6日目	退院	退院
毎日	進行性変化・退行性変化の観察 乳房ケア・授乳指導	沐浴 体重・ミノルタ測定

《教材観》

母性看護学は、人間のライフサイクルにおける、母性・父性の特徴をとらえ、その機能が健全に発揮できるように人間の一生を通して、性という側面から対象と家族を支援する看護である。人間関係形成の根源となる母子関係、家族関係は妊娠から産褥期に大きく変化する。また、この時期の母子関係が児の人格形成に大きな役割を果たしている。そこで、限られた時間の中で効果的に母性看護学を学ぶ機会となるように、人間の一生の中で、身体・心理・社会面とともに大きく変化する妊娠・分娩・育児期を中心に学ばせる。

《学生観》

今回実習する学生は3年生の3ヶ月目であり基礎科目は終了、専門科目も在宅看護学実習、統合実習を残すのみとなっている。既習実習を通して知識・技術面においては定着しつつあるが、心理面へのアプローチについては統合的な看護ケアの発展までにはいたっていない。

ゆとり教育を受けてきた現代の学生の特徴として、生活経験の少なさ、コミュニケーション能力の低さなどが言われている。母性看護学実習は対象と年齢が近い関係の距離のとり方が難しいと考えられる反面、価値観が近い対象理解が深まることも期待できる。また、対象と生活体験が似ているため同じ目線で問題解決する方法を考えることができると思われる。

本実習の近藤はまじめな性格であり既習の実習では日常生活援助や看護過程を展開する技術は身に付けている。しかし、コミュニケーションについては苦手意識がありこれまでの受け持ち患者とは世代格差がありスムーズに人間関係が築けていない。そこで今回の実習では、社会人としての経験がありコミュニケーションがスムーズに行えている男子学生の泊とペアを組ませて、対象のニードを受け

取りフィードバックできるようなコミュニケーション能力を養う。

《指導観》

1. マタニティサイクル各期の身体的・心理的・社会的側面の特徴を理解させたい。
2. 正常に経過すると思われる分娩を通して健康（正常）な母子への援助について学習する。
3. 対象理解では、妊娠、出産、産褥期及び新生児期の看護を一人の患者を通して継続的に学習することは困難である。複数のかかわりの中からの学びを一連の流れとして捉え、統合して理解できるように指導したい。
4. 母性看護学では、対象のプライバシーに関する情報を多数得るため守秘義務を厳守し、妊産褥婦の生殖に対しての観察・援助の場で羞恥心に十分配慮できるようにさせる。
5. 母性の育成には社会的サポートが不可欠であることを理解させ、地域における母子への支援や母性を取り巻く保健制度について学ばせる。
6. 実習を通して、一人の生命が誕生することの素晴らしさや、自分の誕生を振り返ることで親に対する思い、自己の母性、父性観、今後築くであろう家族への前向きな思いなど命の連続性について考えるきっかけとなるように、学生と共に考えていく。




実習経験項目と到達度

週案

《1週目目標》

1. 実習場所の環境に慣れ、母性看護学実習のイメージ化を図ることができる。
2. 分娩の経過をふまえた看護ができる。
3. 出生直後の新生児の観察・処置がわかる。
4. 母子の愛情形成を促すための適切な援助ができる
5. 対象の問題を明確化し、対象の個別性をとらえた看護計画を立案できる。

指導目標	指導内容	指導上の留意点
①実習場所の環境に慣れ、母性看護学実習のイメージ化を図ることができる 	病棟オリエンテーション ・ 病床数・分娩数 ・ 看護体制 ・ 病棟の安全対策 ・ 個人情報の取り扱い ・ 病棟の構造・設備 ・ 物品の保管場所 ・ 週間予定・日課 ・ 業務の流れ・看護記録	・ 学生の理解度、反応を確認し、不安や疑問点があれば補足説明する ・ ウエルネス志向の健康病態が理解できるオリエンテーションを実施する ・ 面接や学生の記録物により個々の実習目標が明確化できるようにする ・ 受け入れる姿勢を示し、学生の緊張が取れるような言葉掛けをする ・ 学生の名前を覚え、名前で呼ぶようにする

<p>②分娩の経過をふまえた看護ができる</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児心音 ・ 分泌物 ・ 陣痛の状態 ・ 排臨、発露、児娩出、胎盤娩出 ・ 胎児付属物 ・ 子宮復古状態 ・ 基本的な生活援助 ・ 呼吸法 ・ 心理的变化 ・ 食事、清潔、排泄援助 ・ 睡眠、疲労状態 ・ 産痛緩和の方法 ・ 補助動作の援助（体位の工夫） ・ タッチング、声かけ ・ リラックス法（足浴など） ・ コミュニケーション技法 ・ 生命の尊厳 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生を分娩台に上がらせて産婦の気持ちを理解させる ・ プライバシーに配慮できるように指導する ・ 分娩期の観察・ケアの重要性を指導する ・ 出産が産婦や家族にとってどういうことなのか考えさせる ・ 産婦と共に分娩に向かい、その場に居ることで、感じたことを明確化できるようにする ・ 全ての援助は指導者と共に見学及び実施する ・ 産婦のニーズに合った援助の必要性を理解させる ・ 産婦のニーズに合った援助の必要性を理解させる ・ 自分にとってどういう体験だったか考えさせる
<p>③ 出生直後の新生児の観察・処置がわかる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出生時の観察の要点と身体計測の目的 ・ アプガースコア、原始反射 ・ 出生時に行っている処置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アプガースコア採点結果を評価し説明できるように指導する ・ 第一呼吸後の新生児の変化・啼泣・皮膚色の変化を観察し理解させる ・ 保温の重要性を理解させる ・ 原始反射を共に観察し、理解させる
<p>④母子の愛情形成を促すための適切な援助ができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母子同室の意義と方法 ・ 児への接し方 ・ 母子のコミュニケーション（アタッチメント） ・ 家族の役割と機能 ・ 家族の絆 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 褥婦、家族との関わりを通して家族の気持ちも理解できるように指導する ・ 自分が出生した時を想起させ母子関係を見直すと共に家族の役割と機能について考えさせる
<p>⑤対象の問題を明確化し、対象の個別性をとらえた看護計画を立案できる</p> 	<p>産褥期のアセスメントと援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バイタルサイン ・ 子宮復古、悪露、外陰部・肛門部の状態、浮腫 ・ 食事摂取、排泄、疲労、睡眠、休息、清潔、動静 ・ 検査データ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 褥婦とのコミュニケーションは、援助の時間を確認し、短時間で効率よく行うように指導する ・ 観察した内容をアセスメントしケアを実施できるように助言する


- ・心理状態・マタニティブルー
- ・育児状況・母親役割獲得段階
- ・出産体験・児の受け入れ状況
- ・サポート状況、家族の反応




- ・診察や検査の介助、保健指導の見学を実施する
- ・ケアの実施は指導者または教員と共に行い、自己評価させ、気がついた点、注意する点を助言、指導する
- ・対象の活動と休息を考えて看護援助を行う

《 2 週目目標 》

1. 看護計画に沿った援助が実施・評価・修正ができる。
2. 妊娠各期にある妊婦の身体的・心理的变化や特徴を理解し、胎児の成長を想起することができる。
3. 新生児の生理的变化を観察・理解することによって、基本的日常生活の援助ができる。
4. 対象のプライバシーや羞恥心に配慮した援助ができる。
5. 親役割・自己概念・相互作用の視点でウェルネス問題を考えることができる。

指導目標	指導内容	指導上の留意点
①看護計画に沿った援助が実施・評価・修正ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・産褥日数と共に変化する生理的变化 ・初回歩行の介助 ・食事、清潔、排泄、休息の援助 ・一般状態、バイタルサイン ・退行性変化 ・進行性変化 ・外陰部の状態 ・浮腫 ・授乳指導（母乳確立援助を含む） ・沐浴指導 ・育児指導 ・育児状況の看護過程の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・褥婦の状態に応じて了解を得て指導者と共に実施及び見学できるように配慮する ・全ての援助はプライバシーに配慮し指導者と共に実施及び見学できるように配慮する ・退行性変化に影響を及ぼす因子について考え援助ができるように指導する ・対象者の状態に応じた内容や方法を選択し実施できるように指導する ・褥婦や新生児、家族に関わる看護上の問題点を抽出できるように指導する ・情報収集、問題の明確化、計画の立案が的確であるか個別性が考慮されているか確認し助言する
②妊娠各期にある妊婦の身体的・心理的变化や特徴を理解し、胎児の成長を想起することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠による母体の変化 ・胎児の発育・付属物の変化 ・マイナートラブル（腰痛・めまい・立ちくらみ・つわり・便秘・静脈瘤・こむら返りなど） ・妊婦健診の各期の目的の理解 ・妊婦健診の介助 ・体重、血圧測定、尿検査の結果確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・母性の意識の発展は個人差が大きいことや妊娠の進行と共に徐々に形成されていくことを気づかせる ・マイナートラブルは母子の健康に直接影響はないが日常生活に支障をきたすことを理解し関連づけられるように指導する ・妊婦が持つ妊娠中の不安や心配

	<ul style="list-style-type: none"> ・腹囲、子宮底測定 ・超音波検査、内診の介助 ・分娩監視装置装着の見学、実施 ・レオポルド触診法 ・各期の保健指導の見学 	<p>事について、実際に助産師との対話を聞き、妊婦の心理変化に対して気付きができるように助言する</p>
<p>③新生児の生理的変化を観察・理解することによって、基本的日常生活の援助ができる</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出生時に行っている処置 ・ 新生児の定義および特徴 ・ バイタルサイン、一般状態の観察 ・ 生後日齢とともに変化する生理的特徴の観察（呼吸、循環、体温、反射、栄養、排泄、体重） ・ 生理的体重減少、生理的黄疸の理解 ・ 経皮的黄疸測定 ・ 室内温度、湿度の確認および衣類、寝具調整の必要性 ・ 哺乳時における新生児の観察要点 ・ 衣類着脱、おむつ交換 ・ 哺乳、排気の仕方、抱き方、寝かせ方 ・ 沐浴の目的と方法 ・ 感染予防 ・ 与薬（K2シロップ服用等） ・ ガスリー検査の目的と方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の測定場面を見学させ成熟児の正常値を理解できるように指導する ・ さまざまな日齢の新生児を観察できるように配慮する ・ 全ての援助について指導者が実施して見せ、指導者の見守りのもとで学生に実施させる ・ 全ての援助について安全に配慮し、愛情を持った態度がとれるように指導者がモデルとなる ・ 新生児と接する時は感染予防のために、学生の健康状態に注意する
<p>④対象のプライバシーや羞恥心に配慮した援助ができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母性特有の診察介助 ・ 内診台への誘導（プライバシーを考慮する） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者の助言のもと検診における安全安楽に配慮した基本的看護技術・援助を実施させる
<p>⑤親役割・自己概念・相互作用の視点でウェルネス問題を考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の役割と機能 ・ 家族の絆 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 褥婦、家族とのかかわりを通して家族の気持ちも理解できるように指導する ・ 自分が出生した時を想起させ母子関係を見直すと共に家族の役割と機能について考えさせる

《3週目目標》

1. マタニティサイクル期を一連の経過として理解できる。
2. 個別に応じた退院指導ができる。
3. 産科・新生児を取り巻く、保健医療福祉チームの中での看護師の役割が理解できる。
4. 継続看護の必要性について理解できる。
5. 自己の母性・父性観を深めることができる。
6. 学生カンファレンスの自主的な運営ができ実習の振り返り今後の自己の課題が明らかにできる。

指導目標	指導内容	指導用の留意点
①マタニティサイクル期を一連の経過として理解できる	<ul style="list-style-type: none"> 分娩見学等の未習得および不足内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> マタニティサイクル期を一連の経過として捉え、実習できたか評価し、助言する 自己の振り返りや発問を通して未習得や不足内容を補う
②個別に応じた退院指導ができる	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導の意義と内容 指導方法（教材など） 受け持ち患者褥婦の退院後の生活状況 	<ul style="list-style-type: none"> 事前ロールプレイや指導者が声掛けを行い、自信を持って実施できるように配慮する 受け持ち褥婦の状態に配慮しながら指導できるように助言する
③産科・新生児を取り巻く保健医療福祉チームの中での看護師の役割が理解できる	<ul style="list-style-type: none"> 母子に関連した社会資源の内容 地域内の社会資源と活用方法 	<ul style="list-style-type: none"> 母子に関連した社会資源について事前学習するように指導する 関係機関との連携や地域支援について理解し対象者にあわせて活用できるように指導する
④継続看護の必要性について理解できる	<ul style="list-style-type: none"> 2週間健診の見学 家庭での母子の育児状況（母子の健康状態、基本的な生活状況、愛着形成状況、サポート体制など） 	<ul style="list-style-type: none"> 学生のレディネスを高めるため事前の学習内容に対して発問を行う 施設内と家庭での育児の違いを理解できるように配慮する
⑤自己の母性、父性観を述べることができる	<ul style="list-style-type: none"> 母性、父性観について 	<ul style="list-style-type: none"> レポートをまとめることで自己の母性、父性観を実感し深められるようにする
⑥学生カンファレンスの自主的な運営ができ実習の振り返り今後の自己の課題が明らかにできる	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の学習の共有 実習の振り返り カンファレンスの役割・責任 自己分析と評価 課題の明確化 <div data-bbox="746 1693 874 1906" data-label="Image"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 学生がテーマを設定し自主的に運営できるように助言する 役割を全員が責任をもって遂行できるように配慮する マタニティサイクル期を一連の経過として捉え実習できたか評価できるように助言する 自己の振り返りや発問を通して事後の課題が明確になる

日案

日案設定日：平成 25 年 6 月 11 日（実習 5 日目、産褥 3 日目）

日案日の選択理由：分娩時の身体的疲労は回復するが母子同室がはじまり母親役割獲得にむけて新たな課題が出てくる時期であるため設定した。

学生：近藤由紀子・泊しのぶの状況

学生近藤は、半沢花さんが妊娠 38 週の定期健診で来院し、陣痛発来、破水疑いで同日入院となった。受け持ちに関して説明し男子学生、泊とのペアで了解を得た。その後、夜中 0 時に陣発し徐々に進行していった。学生近藤が実習に来た時には子宮口 5cm 開大、陣痛 3-4 分であった。分娩第一期は夫と共に半沢さんに直接付き添い指導者の助言のもとに必要な援助を行なった。男子学生、泊は間接的な援助を実施した。学生は半沢さんの分娩に立ち会う事ができ、半沢さんや夫と共に出産の喜びや大変さを共有することができた。

受け持ち褥婦半沢さんの状況


6 月 8 日 14 時 30 分に元気な男児を出産した。分娩中・分娩後の経過は良好で 6 月 9 日より母子同室を開始している。乳房は軽度緊満し乳汁分泌は少量みられる。会陰部の創痛は軽度見られるが動きもスムーズである。児の一般状態はよく哺乳力は良好である。初産婦であり出生後間もない児の扱いに不慣れで不安を感じているものの、昼夜問わず母乳栄養へのこだわりをもっていたため、産褥 2 日目より疲れが見え始めた。




指導目標

1. 産褥期の身体的・精神的特徴について理解した上で観察・アセスメントを行ない、個別に応じた必要な援助ができる。
2. 受け持ち褥婦の退行性変化を理解し、促進する為の援助ができる。
3. 早期新生児期の生理的特徴を理解した上で観察・アセスメントを行ない、安全・感染予防に留意しながら日常生活の援助ができる。
4. 受け持ち褥婦の進行性変化を理解し、母乳栄養確立に向けての援助ができる。
5. 母子相互作用について理解ができる。
6. 学生カンファレンスで積極的に意見交換ができる。

時間	指導内容（実習内容）	指導方法	指導上の留意点
8:30	・ 申し送り ・ 1 日の行動計画の発表	・ 申し送りに参加させる ・ 本日の実習目標を明確にし発表させる	・ 実施可能な内容か確認し無理があれば修正する
8:45	・ 受け持ち褥婦、新生児の情報を収集する	・ 現時点の母子の状態をカルテ、申し送りから情報収集させる ・ 受け持ち褥婦が受ける処置、指導や新生児が受ける診察、処置、援助に変更がないか確認する	・ 母子の情報収集が的確であるか確認する

9:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動計画修正 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習計画、観察項目が受け持ち褥婦、新生児の状態と合っているか確認させる 合っていない場合はなぜ合っていないのか考えさせ修正する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動計画、目標が的確であるか確認する
9:15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受け持ち褥婦への挨拶 ・ 行動調整 ・ 環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受け持ち褥婦に本日の行動予定（実習時間）を伝える ・ 母子同室中であることを意識した環境整備が実施できるように指導する (室温、ほこりを立てない、物品の配置、コートを置くスペース等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母子同室中であることを配慮した観察が必要であることを理解させる ・ 物品の場所を移動する場合は褥婦に了解を得て一緒に実施するように指導する ・ 環境整備時に、その環境が母子同室に適しているかアセスメントできるように指導する 適してない場合は適した環境に整えられるように助言する
9:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受け持ち新生児のバイタルサイン測定、全身観察 ・ 沐浴、体重測定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染防止のために手洗いを励行させる ・ 児の状態について観察させる（バイタルサイン、一般状態、呼吸、循環、体温、反射、栄養、排泄、体重など）安全に留意し手順にそって沐浴させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バイタルサイン・体重などのデータの変化をみる ・ 生後3日目の児の状態をアセスメントさせる 
10:15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授乳見学 ・ 受け持ち褥婦のバイタルサイン測定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳房の状態について観察させる ・ 授乳状況を確認させる (授乳姿勢、児の抱き方、排気のさせ方、哺乳力、ラッチオンなど) ・ 母親の表情、言動 ・ 育児技術について確認させる（児への接し方表情について） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授乳状態を観察することで次回の対策につながることを助言する ・ 乳房の状態には個人差があり、授乳方法にも個人差があることを理解させる ・ この母子にとっての適切な授乳方法とは何か考えさせる
11:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 測定した内容を系統的に正しく報告できているか確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分なりのアセスメントの視点があるか述べさせる ・ 午前からのデータから考えて午後の行動計画を確認する
11:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休憩 		

12:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 午後からの行動計画に必要な情報を収集できているか確認する 	
13:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検温 ・ コミュニケーション ・ 乳房ケア ・ 授乳見学（自室） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 午前中に観察した状態と比較して観察させる ・ 実施前に観察のポイントを確認させる（バイタルサイン、一般状態、食事、排泄、睡眠、疲労、休息、退行性変化、外陰部、浮腫など） ・ 産褥 3 日目の正常な退行性変化、進行性変化について学習できているか確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察した状態が午前中と比較してアセスメントできているか確認する ・ 観察した状態についてアセスメントし、必要な援助や指導ができるように助言発問する ・ 得た情報をアセスメントし必要な援助を導き出せるような助言、発問をする

場面 1

午後の実習にむけて、半沢さんの受け持ちの近藤さん、泊君、指導者が午前中の振り返りをしています。泊君は午前中は新生児室に入り半沢さんのベビーの観察や沐浴など実施していました。



①午前中、半沢さんが授乳室にきたときすごく疲れてたみたいだけど、何か言った？



②すごく疲れてる様子でバイタル測定だけして会話できなかった・・・。



③なぜ疲れていたのかな？



④わかりません。授乳が上手くいってないのかな・・・？



⑤乳房の状態や授乳の様子はどうだったかな？



⑥見てないんです・・・。

⑦よく泣くから夜中も再々あげて寝てないって言っていました。



⑧母乳が足りてないのかな？疲れているようなら再々訪室するとしんどいかもね。どうしますか？（学生に考えさせる）



⑨・・・午後は泊君と2人で行って情報収集していきます。泊君お願いします。

半沢さんのもとへ訪室する。夫は来室中。



①失礼します。



②僕も一緒にいいですか？



③はい。お願いします。



④疲れているんですか？食欲もないみたいですが・・・。



⑤そうですね～。夜もあまり眠れてなくて。



⑥赤ちゃんがよく泣いて起きるんですよね？



⑦母乳をほしがってると思うので、頑張って吸わせているのに・・・。



⑧ミルクはあげないんですか？



⑨ミルクはできるだけあげたくないんです。母乳で頑張りたいんです。



⑩母乳でがんばりたいんですね。でも、眠れていなくて食欲もないみたいなので少し休まれたほうがいいと思うんですが。一度だけ看護師さんにまかせてみたらどうですか？

泊君よく気がついた。

半沢さんの母乳に対する思いを上手く聞き出せているわ！半沢さんには休息が必要なことも気がついている。





⑪僕の奥さんも1人目のときはクタクタになっていました。僕が何回かミルクあげたりしました。ぐっすり寝たら母乳もよくでたって言ってましたよ！赤ちゃんにミルク上げるのも楽しかったです。旦那さんに頼んでみたらどうですか？

夫：そうしてもらいなよ。僕があげるよ。



泊君、ちょっと待ってよ～。
自分の経験を話すのもいいけど
母乳には個人差があるし、
ちょっと一方的過ぎないかな。
スタッフに相談してから…。




⑫半沢さん、それなら一度看護師さんに相談してみましょう。

母乳もあげて休める授乳方法があると思います。相談してみませんか？
(半沢さんも交えて相談する。)

近藤さん良い判断です。
搾乳をあげて休んでもらうとか、
添い寝授乳とかいろいろ方法があります。
相談するという事は
良い判断です！



その後、看護師と相談し半沢さんの負担を軽減できるような方法を検討した。
(添い寝授乳、搾乳での授乳など)

14:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告 ・ 情報収集 ・ 記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 測定、観察した内容が午前中に観察した状態と比較し、系統的に正しく理解できているか確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集した内容が明日の実習の行動計画につなげられるように指導する
15:00	カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が主体的に進行、発言できるように助言する ・ 今日の学びをグループ内で共有し、明日の実習につなげられるか確認する 	

場面2 学生カンフェレンス



①今からカンファレンスを始めます。今日のテーマは・・・。



②あの～すみません。どうしても話したいことがあるんですが……。いいですか？



(あら、どうしたのかしら？近藤さんが自分から手を上げるなんて……。)

③いいですよ。



④今日のカンファレンスは近藤さんに任せましょう。



⑤今日受け持ち患者さんとの会話や観察が上手くいなくて、午前中の実習がなかなか進まなかったんです。でも、午後から泊君といっしょに行動することで、会話のきっかけができ、必要な情報収集ができるようになりました。
(今日の実習の出来事をみんなに話す。)



⑥今の話を聞いてどう思いますか？



⑦泊君は自分の経験から産褥の大変さもわかり会話のきっかけを作ってくれたんですか？



⑧はいそうです。



⑧自分の判断だけでなく相談してからアドバイスできればよかったです。でもそれを補ってくれたのが近藤さんでした。



⑨近藤さんも泊君と一緒にコミュニケーションもとれてきて、スタッフへの相談も忘れずにできたんやね。



⑩今日の実習は2人がお互い色々気付けたんですね。



⑩半沢さんも搾乳や添い寝での授乳方法を知ることができて少し休めたみたいです。月曜日は退院の日なので、状態を観察して家庭での育児がスムーズに行くように退院指導できるように勉強してきます。

学生同士で上手く問題解決
することができました。
近藤さんも少し積極的になっ
てきたわ。みんな笑顔も
増えてきたし！
いいグループになって
きたわ！
学生すごい！



考察

母性看護学実習は、他の臨床実習と異なり、対象が女性限定であり、年齢も学生と近いと、関係の距離のとり方が難しい。受け持ち事例選定後展開も早く情報不足のまま、対人関係を図らなければならない。また、男子学生は、母性看護では性器に関する援助が多いため異性に対して羞恥心やためらいがあり実習に消極的になりやすい。そこで、生活経験のある男子学生とコミュニケーションが苦手な女子学生をペアとして実習に参加させ、お互いの気づきに期待した。辻²⁾は「看護師が行うコミュニケーションの目的は患者の気持ちを受け取り、苦しさを共有し理解し合う事。看護師は単に会話が上手というより患者に心から真剣に向き合って、患者が発するメッセージを上手に受け取り、フィードバックすることが大切。」と述べている。育児経験のある男子学生は、育児に対する理想と現実のギャップに不安や疲れを抱いていた対象者のメッセージに気づき、理解するきっかけ作りとなった。

また、女子学生は、指導者とともに対象者の思いをふまえたよりよいケアができるような看護の展開へと導いた。

カンファレンスは、個人が実習期間中に経験できなかったことに関してディスカッションすることで、学生個人の学びが深まり、母性看護学実習の目標達成に大きな役割を果たすといえる。自らの意見を持って参加し他学生の体験をもとにディスカッションすることで、学びの共有ができたのではないかと考える。屋宜³⁾らは、「起きていることを学生が自分の言葉で意味付けけるということはこのような看護、すなわち臨床の知を学生が学ぶということに他ならない。」と述べている。自分が経験した事例、経験できなかった事例を、カンファレンスを通して学びを共有することができ、生命の神秘や尊厳、母性愛、家族の役割、自分自身の母性・父性観について学びを深められた。

母性看護学実習では、母と子の2人を同時に援助の対象とすることで、一人の人間の始まりとともに、人間関係の始まりである親子関係への支援が必要となる。さらにこの時期には、正常に経過する母子をよりよい状態にするための支援であるウェルネス志向について学び、健康の保持・増進のための看護が重要である。また、生命誕生の場に立ち会うことや新しい命の重みを感じるにより、命について再考し、命を慈しむ気持ちや、学生自身の親性観（父性観・母性観）を育てる機会となる。

指導者はそれぞれの学生が持っている個性を実習に生かせるように働きかけていくことが必要である。しかし、実際の臨床の場では勤務形態の都合上、実習指導者が固定して学生に関われないことが現状であるため、個々の学生の個性を理解するのは難しい。そこで、実習指導者は学生をよく知る教

員と連携をとって、学生をより理解していくことが望ましいと感じた。そして、学生同士が実習を通してよりお互いを高めていけるように、環境（教材観・指導観・学生観）を考え整え、調整していく努力をしていきたい。

終わりに

実習指導案を作成するにあたり、講義の中に臨地実習のあり方や実習指導者の役割、学生との関わりの大切さを学ぶことができ、指導者としてどう関わっていくべきか考えさせられた。今回の学習で学んだ事を生かし自らが役割モデルに近付けるよう自己啓発に努めていきたい。

謝辞

臨地実習指導案を作成するにあたり、ご指導いただきました徳島文理大学保健福祉学部看護学科・佐原玉恵先生をはじめ諸先生方に深く感謝申し上げます。



引用文献

- 1) 太田操：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程, 医歯薬出版, 東京, 2005
- 2) 辻幸代(2013-09-10)：看護師に求められるもの, Yumenavi, 心理学行動科学看護学講義, 関西医療大学, 講義 No. 02351, <http://yumenavi.info/>
- 3) 屋宜譜美子：教える人としての私を育てる - 看護教員と臨地実習指導者 -, 医学書院 (55) 東京, 2009

参考文献

- 1) 主濱治子：母性看護学の実習指導案, 看護展望 34 (2), 医学書院, 2009
- 2) 武内恵美子他：母性看護学実習指導案, 第三回徳島県保健師助産師看護師等実習指導者講習会集録, 2003
- 3) 中村幹子他：母性看護学における看護過程の教授法, 看護教育 47 (3), 医学書院, 2006
- 4) 高橋悦子他：臨地実習指導者が実習指導を通して抱く思い, 看護教育, 第 40 回日本看護学会集, 2009

